

R7 地震・火災からの避難マニュアル

場面	職員の動き・指導	係活動
火災発生 《非常ベル》	動きを止める、黙って聞く A:黙って放送を聞きなさい。	状況確認・指示 本部 (教頭) 「異常の表示が出ました。確認をしていますので、その場(集合場所)で待ちなさい。」(教頭)が確認に行く
A 授業中	B:集合場所に駆けつける。	
B 休み時間		救護 (河西由) 保健室へ行く
避難開始 《放送》	避難誘導 A : 紅白帽をかぶり、ハンカチで鼻と口を押さえ、名簿順2列で並ばせる。 ○持ち物 健康観察カード(教室にある場合) ヘルメット・ホイッスル ○窓・戸をしめる ○ストーブ消火確認 B : 低学年から順に2列に並ばせる。 ・避難開始 廊下・階段を走らない最も近い非常口から外に出る。 校庭南側階段(1~3・5年) 登校坂側(4・6年)	避難指示・本部設置 本部 (校長) 教頭の連絡を受けて避難指示を出す。 (教頭・沓掛) 放送「訓練、訓練。○○○で火事です。燃え広がる恐れがあるので、先生の指示を聞いて避難しなさい。(2回繰り返す)」 (北澤) 消防署に通報し、名簿を持つ。 (教頭) 本部旗、メガホンを持つ (校長) 校庭に本部を設置 巡視 (今井・野口) 1階・体育館 (向川原・浜) 2・3階 (両角) 北校舎の巡視 搬出 (北澤) 電話の子機・ 緊急時連絡票を持ち出す 救護 (河西由) 保健室に行き、養護補助健康観察カードを持ち出す
校庭に避難	安全確認・報告 A : 人数確認 担任→学年主任→教頭 B: 来た順に2列に並ばせ人数確認 担任→学年主任→教頭 巡視 教頭に報告 ☆避難確認表を用いて報告 ☆特別支援学級児童を含めて報告	指導・二次活動 本部 中央階段から下り先に出て、避難場所を明示する。 救護 本部横に設置し応急処置ができるようにする。 本部 避難確認後二次活動指令 搬出 非常持ち出し品の持ち出し ★各係活動終了後、本部に報告
地震の場合	☆安全確保 机の下にもぐる ☆避難 戸は開けたまま避難 他は火災と同じ	本部 ☆緊急地震速報を流す 他は火災と同じ
児童を留め置く処置の場合	1. 諏訪市で震度5弱の地震発生、それに伴う土砂災害の発生 2. 東海地震注意情報の発令 3. 学区内の地区に避難勧告・指示が発令された場合 ※以上の状況を目安に、教育委員会からの指示と学校長の判断により留め置き処置をとる。	